●茶陶の品格

上野焼の特徴はまず茶陶であ

げられます。上野焼を開窯させ 窯」としての伝統を誇ることが挙めの器を作り続けてきた「御用 た細川忠興は、 ること。当初から藩主が使うた 信長に仕え、利

が茶席です。目立ちすぎず、 そんな上野焼が一番似合う場所 忠興の嗜好が原点にある強さが、 休に学んだ超一流の大名茶人。 をも変える力を秘めています。 調和しつつ、場の景色や雰囲気 れでいて存在感がある。空間と 上野焼の格調の根底にあります。

ひとつの器を生み出 絶え間なく陶技の幅を広げてき 代と向き合い、試行錯誤を重ね、 三彩や紫蘇手などの装飾性も高 作品には、研ぎ澄まされた野 まり、作品を特徴づけまし あふれる風格が漂っています ている銅を含んだ緑青をはじめ、 、後期には、上野の代名詞となっ 4百年を越える伝統 た野郷の た。



忠興が求め

窯として歩ん 国焼茶陶、 の風格に表れ できた上野焼 た美しさが、

経て加味され の礎に時代を に通じる真っ た「侘び寂び」 絶え間なく理想を追求した伝統の上に、 磨き上げられた今の上野がある。 御用窯の格調と趣、唯一無二の存在の器たち て趣を変え、格調の高さを残し 違います。その作風は時代によっ われ、それぞれに肌合いや艶が 彩であること。多種の釉薬が使 ながら現在に至っています。 戦乱の世から間もない 上野焼のもう一つの特徴は、 時代と歩んだ作風

と洗練された現代感覚の調和が しています

灰釉に鉄を混ぜた釉薬、 一般的に深い茶褐色。



草木の灰に長石などを 配合した基本的な釉薬。



透明な灰釉に藁灰を混 ぜた白濁の美しい釉薬。



上野の代表色となってい る酸化銅を使った釉薬。



野 が

多

な色と肌

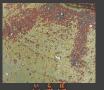
そし

て伝統の技

0 数

Q

素地の上に白い土を化 粧掛けする李朝の技法。



見た目も手触りも荒々し さが特徴の伝統的釉薬。



唐津焼で有名だが、古 上野にもみられる釉薬。



鉄釉の一種、酸化焼成 で透明感のある飴色に。



黒い素地に白い化粧士 を刷毛で塗る李朝技法。





素地に文様を捺し、化粧 土を塗り込む李朝技法。



三種類の釉薬で彩られる

後期上野の代表的技法。

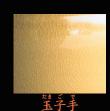
二色の土を使って成形 し木目文様を出す技法。



鉄分を含む絵の具で下

絵を描く、伝統的な技法。

鉄釉の低火度焼成によ る窯変で紫蘇色の肌に。



透明感のある薄黄色で 潤いのある釉肌が特徴。



銅を還元炎焼成し赤色の 発色を現した鮮やかな肌。



素地が表れる虫喰、粒 が美しく均一に連なる。



高麗茶碗や西日本の古 窯にもみられる淡い色調



柚子の皮のような質感に なる鉄釉の低火度窯変。



含鉄土石(ヤケ)が原料

で深い赤茶色の伝統色。



江

06